愛 媛 県

果　試 ニュース

第13号　　平成12年８月

棟面開口型ハウスの不知火

この約１０年間は、奇数年が夏秋期多雨で柑橘は品質不良で生産量過多、逆に偶数年が少雨で高品質、生産量少となっている。この特異な気象もそろそろ平年状態に戻ってほしいと祈願しているのであるが、今年は梅雨から夏期にかけて高温少雨で推移し、高品質果実生産が期待されるものの、生理落果が多く、果実肥大も抑制されているため、開花時の予想生産量の下方修正が必要になっている。さらに、来年の着花過多の心配も大きくなってきている。しかし、柑橘は９月の気象の影響が大きいので、乾燥が続けば適度な灌水を実施し、降雨が続けばマルチ等により、高品質果実の安定生産に努めていただきたい。

さて、今回は皆さんに関心ある３題を掲載した。不知火の簡易ハウス栽培は経費と労力を縮減しながら高品質果実生産を行なう技術であり、経営の一部にこうした施設栽培を導入して経営安定を図っていただきたい。天敵糸状菌によるゴマダラカミキリの防除は、農薬散布によらないでカミキリの密度を低下させる新しい技術であり、管理不良園の増加でこの虫による樹体被害が増大している時、地域ぐるみで取り組むことにより、数年間でこの虫による被害を激減できる。また、カラシ等に含まれる揮発性物質を利用して貯蔵や輸送中の柑橘果実の腐敗を防止する試験は、実用段階の一歩手前にあるが、この方法によってカビ病が抑制できれば、収穫前の農薬散布が省略できるばかりか、市場のクレームを少なくして有利販売が期待できる。

場　長　別府英治